

令和5年 飯田市教育委員会10月定例会会議録

令和5年10月17日（火） 午後 3時20分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	林 綾子
教育委員	野澤 稔弘

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
学校教育課長	福澤 好晃
学校教育専門幹	今井 栄浩
生涯学習・スポーツ課長	伊藤 弘
文化財保護活用課長兼考古博物館長	宮下 利彦
市公民館副館長	上沼 昭彦
文化会館館長	下井 善彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長兼歴史研究所副所長	牧内 功
学校教育課長補佐兼総務係長	櫻井 英人

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） 時間になりましたので、令和5年10月定例会を始めます。よろしくお願いいたします。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） 日程第2、会期の決定。10月定例会の会期を本日1日としますが、よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 承認いただきました。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程第3、会議録署名委員の指名。会議録署名委員を北澤正光教育長職務代理者をお願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） はい。

○教育長（熊谷邦千加） お願いします。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 日程第4、会議録の承認。9月定例会会議録をご確認ください。
何かご意見があればお願いをいたします。

（「特にございません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて日程第5、教育長報告事項。

最初に、第3回飯田市議会におきまして承認をいただいた新しい教育委員さんを紹介いたします。林 綾子さんです。

今、保護者としてお子さんを育てておられ、PTA、あるいは地域の活動で様々な貢献をされておられます。10月9日に着任をいただいて、保護者の代表として、また市民の一人として飯田市の教育行政についてご意見をいただきます。

それでは林委員さんからごあいさつをいただきたいと思います。

◇教育委員（林 綾子） ただいま熊谷教育長よりご紹介いただきました林 綾子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

保護者の代表ということで就任させていただいておりますが、私自身がまだ育児に奮闘しているような状況でございますので、そういった保護者目線、一市民としてというふうにもおっしゃっていただきましたので、そういった目線を忘れずに、少しでも皆さんのお役に立てるように一生懸命やっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

（「よろしくお願ひします」の声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

それでは続いて資料を通じてご案内をしたいと思いますが、お手元にありますでしょうか。

10月になりまして、様々な文化的な行事、スポーツ等がございました。ですので、たくさんのものが載っておりますが、いくつかかいつまんで報告を申し上げたいと思います。

コロナ後、初めてこれで4年ぶりでしょうか、小学校の運動会に参加させていただきました。教育委員さん方も参加していただいたかというふうに思いますが、学校行事がかなり復活していく中で、やはりコロナ前と大分やり方を変えているなっていうところがほとんどだと感じました。1つは半日開催にしたりとか、あるいは学年の種目以外のものは廃止または簡略化したりしてきました。学校で運動会の万国旗をやめるというような話があったときに、地域の方、保護者の方が「万国旗がなきゃ運動会にならない」ということで、自ら準備をしていただいたという話もお伺いしました。また、少人数なので「用意ドン」の前に一人一人の名前を紹介してからスタートと、それぞれの良さを生かした取組がなされて、これは良いやり方だなあということを改めて感じたところでありました。

それから今、進めておりますが、飯田下伊那全体で部活の地域連携・地域クラブ移行に向けた一つの試行として、「文化芸術・スポーツ エンジョイ スクエア」の準備と開催に向けたスポーツ活動検討委員会がございました。子どもたちにとってアンケートの結果なんですけども、上位のものの中には学校の種目にはなかなかないものが上がってしまっていて、バドミントン・eスポーツ、その後の数字は実際に子どもたちがそれをやってみたくて言った数でございます。ボウリング・バスケット・卓球はございます、ソフトテニスもありますが、7番目の漫画イラスト・動画編集・料理・釣りといったようなそういったものもありまして、子どもたちの今の興味関心が見えたなっていうふうにも感じております。また、逆に少ないけれども、部活動にない種目というのがそこに載せてあるようなものがある

りました。

それからの日本福祉大学のセミナーの講演会に出席して、ごあいさつをさせていただきましたが、そこで、こども食堂のお話をお聞きしました。テーマは「南信州から考えるこどもの居場所づくりや支援のあり方」ということだったんですが、一番印象に残ったのは、こども食堂に来る子どもたちだけでなく、誰でも居場所が必要なんだっていう基本的なスタンスがあって、それは場所ではあるんですけど、場所があればよいのではないっていうことでした。つまり居場所っていうのは「誰かにちゃんと見てもらえている、受け止められている、尊重されている、つながっていると感じられるような関係性のある場所のことを言うんだ」ということで、「単に場所としてこども食堂の会場に行ってるんじゃない」っていうお話をいただいて、非常にハッとしました。

また、裏面をご覧いただきたいと思っておりますが、それぞれに文化的な行事がございました。風越登山マラソンについては後で発表がありますし、それぞれのところをご覧いただきたいなと思います。

県展の飯田会場開幕式っていうのは短期間でありましたがございまして、長野の県立美術館とこの飯田会場2会場だけで行われたものでありますが、非常に作品が素晴らしくて感動をいたしました。飯田下伊那では、日本画で手塚俊尚さんが美博でいろいろな活動をしていただいているんですが、「蝶と蛾」っていう作品で知事賞を受賞されたということ。そのほかに洋画で所澤さん、工芸で新井さんが飯田の方で受賞されておられました。

一番思ったのは、審査員の皆さんの作品も出品していて、その審査員の皆さんの解説等をお聞きすると、非常にその絵の深みが見えてきたり面白いなあっていうふうに思いました。その手塚さんたちの企画で、高校生が一日学芸員をするということを新たな試みとしてやっておられて、高校生が賞とか関係なく自分が良いなと思った作品についてどこが良いと感じたかっていうことを見に来られた方たちに紹介をするという、そんな催しを翌日に企画されていて、とても面白い企画だなあというふうに思いました。

また後でそれぞれの課長からの報告もありますので、その他はご覧をいただきたいと思えます。

以上、教育長報告事項とさせていただきますが、何かご質問、ご意見がありましたらお願いします。

(「ございません」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) よろしいでしょうか。

日程第6 議案審議（2件）

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程の第6に入ります。議案審議、本日は2件の議案についてのご審議をいただきます。

議案第58号 令和5年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 議案第58号、「令和5年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について」。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは議案第58号、令和5年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について、4ページでございます。

認定対象者につきましては、別紙でご用意させていただいておりますとおりでございます。それぞれ記載いたしました認定要件にて、飯田市就学援助費支給要綱第5条第1項の規定により、飯田市就学援助費の支給対象者として認定をいただけますようご提案を申し上げます。

以上、よろしくお願いいいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ご質問、ご意見がありましたらお願いいいたします。

（「特にありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、承認をいただいたということで次にまいります。

議案第59号 学校運営協議会委員の任命について

○教育長（熊谷邦千加） 議案第59号、「学校運営協議会委員の任命について」。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは5ページ、議案第59号、学校運営協議会委員の任命についてでございます。

こちらは10月1日付、飯田市職員の人事異動によりまして、南信濃公民館主事が交代したことに伴いまして、和田小学校より学校運営協議会委員、北澤 健氏から新たに三輪真梨子氏へ変更が生じた旨の連絡がございましたので、飯田市学校運営協議会規則第7条第1項及び第2項の規定により、任命したくご提案するものでございます。

任期は、同規則第9条第2項の規定により、前委員の残任期間となります。

参考までに6ページ以降に飯田市学校運営協議会規則を付してございますので、ご確認

くださいますようお願い申し上げます。

説明は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいまの説明につきましてご質問、ご意見がありましたらお願いします。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 承認をいただいたということでよろしいでしょうか。

日程第7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして日程第7「協議事項」。

本日は1件についてのご協議をいただきます。

（1）飯田市不登校児童生徒支援事業助成金交付要綱の制定について

○教育長（熊谷邦千加） 飯田市不登校児童生徒支援事業助成金交付要綱の制定について。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは9ページから11ページ、資料No.1をお願いいたします。

飯田市不登校児童生徒支援事業助成金についてでございますが、こちらは昨年度より予算要求をし、今年度新たな事業として検討をしております不登校児童生徒を支援する新たな取組になりまして、その助成金交付要綱の制定についてご協議をいただきたいものでございます。

まず、9ページ目、趣旨といたしましては、全国的に不登校児童生徒が増加しており、不登校児童生徒の居場所としてフリースクール等の民間事業者も増加してきております。飯田市においても、不登校児童生徒の支援を行う民間事業者が複数ありまして、不登校児童生徒の受入れ、支援事業を実施しております。

児童生徒の社会的自立を促すためには、フリースクール等の学校と家庭、それからフリースクール等が連携をし、児童生徒に寄り添った支援を行っていく必要があります。先ほど、教育長がおっしゃられておりました「居場所」というところですね。

また、多くのフリースクール等では経営基盤が脆弱であるという状況もございますので、継続的な事業展開を行えるための支援が必要であるということで、このような要綱を制定し支援対象とする事業者を明確にして、当該事業者の支援を行っていききたいということが趣旨でございます。

続きまして、交付対象となる事業者の要件でございます。

(1) から (5) までございますが、全てを満たしていることを要件としたいとするものでございます。

不登校児童生徒の在籍している飯田市立の小中学校長が指導要録上の「出席扱い」にできると判断している児童生徒が通っていること。いわゆる飯田市内の小中学校に在籍する児童生徒がその対象者ということでございます。

それから飯田市内に不登校児童生徒が通える施設または活動拠点があり、複数の児童生徒を受け入れていること。

それから保護者及び学校職員との間に十分な連携・協力関係が構築されていて、受入れている児童生徒の支援方法や指導経緯をそれぞれが共有・確認していること。

4つ目ですが、不登校児童生徒の社会的自立を目指した相談・指導を行っており、かつ、当該児童生徒が学校へ登校を希望したときに円滑に学校へ復帰ができるような支援体制をとっていること。

5つ目ですが、営利を目的としない事業者が開設・運営をしていることということで、ほかの補助金等の交付を受けてない事業者をできれば優先して助成をしていきたいというものでございます。

交付対象となる事業につきましては、(1) としまして、不登校児童生徒や保護者または学校の職員を対象にした教育の相談事業。

不登校児童生徒を対象にした学習・体験活動等の支援事業。

その他不登校児童生徒に必要と考えられる事業でございます。

助成金として交付する金額は、予算の範囲内で、1事業者あたり 15 万円を上限とするものでございまして、その 15 万円の内訳といたしますか算定は以下のとおりでございます。

教育の相談事業や学習・体験活動等の実施に係る経費の助成は一律に 5 万円。

それから在籍する不登校児童生徒の受入れ実績に応じた加算といたしまして、1人に1日につき 500 円で算出した額。ですので、例えばお二人の方が 100 日間、1カ月を約 20 日間といたしますと、お二人の方が約 5カ月くらい通われている実績があれば、その 10 万円の上限に達するというようなそのようなことをイメージしていただければと思います。

その他といたしましては、この要綱制定後、令和 5 年度事業から適用するということが今現在 10 月でございますが、遡って 4 月、今年度当初から適用をするということ。

それから本要綱に類似した不登校児童生徒支援事業交付金交付要綱というものがございましたが、そちらは廃止をするということ。

それから長野県において「信州型フリースクール認証制度」の検討が進められておりま

すので、その認証制度の運用が開始された後は、必要に応じて本要綱の見直しを行うというものでございます。

そして 11 ページが、飯田市不登校児童生徒支援事業助成金の概要ということでございますが、こちらは今の要綱を分かりやすく概要をまとめたものでございますが、先般 5 月 18 日に関係する 20 団体余りの皆様にお集まりをいただいて開催をしました。長期欠席児童生徒支援ネットワーク協議会、こちらにたたき台の案としてお示しをしてご意見を伺っておるところでございます。

ちなみに各団体へお示しをしましてから 5 カ月ほどが経過しておりますが、これは先ほどもお伝えをいたしました、長野県におきまして今年度フリースクールの認証制度の検討が行われておりましたので、そちらとこの事業との大きな乖離が生じてはいけないということもございまして、県の検討状況を見つつ進めておりましたので、この時期となっておりますことを申し添えておきます。

説明は以上になりますが、ご質問ご意見等含めましてご協議をよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、それではこの件につきましてご協議をいただきたいと思ひます。

ご質問、ご意見ありましたらお願いいたします。

三浦委員。

◇教育委員（三浦弥生） ご説明ありがとうございました。

9 ページにあります要綱の規定に関するところの 4 番目のところについてのご質問です。助成金として交付する金額ということで、「予算の範囲内かつ」とありますが、大体どのくらいの予算があつて、1 事業者あたり上限の 15 万円とするとおおむね何事業者くらいが受けられるものなのか、ご説明いただければと思ひます。

○教育長（熊谷邦千加） 福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） 予算は 160 万円としておりますので、11 団体程度が想定をされます。

今現在もネットワークの団体の皆さんと教育支援指導主事の先生方とのやり取りをしている中で、おおむねそのくらいの団体が対象になるのではないかということ想定しながら、なるべく上限は上げながら、広く利用者、団体の皆さんに交付ができるようにということで金額を設定させていただきました。

○教育長（熊谷邦千加） 三浦委員、どうぞ。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。

大切な内容の助成金だと思います。しっかり団体を把握をしていただいているということで安心いたしました。ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） 続けて北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 似たような質問ですけど、ネットワーク協議会に今 20 団体ぐらいが入っていると言っていました。私の記憶だとネットワーク協議会にいろいろな団体が入っているけれど、この事業に該当しそうな団体はどれくらいあるのでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） 該当しそうな団体の皆さんがおよそ半分程度と現在のところ見込んでおります。

○教育長（熊谷邦千加） 北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） あわせての質問です。

このネットワーク協議会に主だった団体の皆さんは入っていると承知していますが、事務局で把握している、要は不登校の児童生徒を受け入れてくださっている、いわゆるフリースクールに類するような施設というのは、飯田市内では何団体とか、何施設ぐらいあるのでしょうかというのが1つ目の質問。

もう1つの質問は、同じく9ページの3の交付対象となる事業の（1）番の「保護者の相談事業」というのは分かるのですが、「学校の職員を対象にした教育の相談事業」というのは、具体的には例えばどんな相談内容になりますか。その施設に通っているお子さんのことについて、情報共有するとか支援方針を相談するとか、そういうイメージでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） はい、1つ目のご質問でございます。何団体程度かというところでございますが、今年度そのネットワーク会議を行うにあたって該当するところ広くお声がけをさせていただいて、昨年度から 1.5 倍ぐらいの約 20 団体の皆さんにご出席をいただいておりますので、こちらで学校と連携をしたりということも含めて把握している団体が 20 団体でございます。

2 番目のご質問といたしましては、北澤職務代理者のご質問のとおり、学校の先生方とそのフリースクールの方がそういった相談・報告等の事業というものが該当になるというところでございます。

◇教育長職務代理者（北澤正光） ここからは、意見というか要望を。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

◇教育長職務代理人（北澤正光） 分かりました。

この不登校児童生徒のネットワーク協議会というのは、立ち上がって12年ぐらいたっていると思います。年々間口が広がってきて、いろんな団体の皆さんが入ってきたということも分かりました。さらに20団体ぐらいに広がっていることも分かりました。今後、この事業をより有効にしていくためにも、ネットワーク協議会という名前はともかくとして、こういう関係団体の皆さんが集まって情報共有し、それぞれの団体がどんな特性のあるお子さんを受入れてこんな内容でやっているということを、団体同士が知っているということはすごく大事なことだと思うのです。多分、ネットワーク協議会は年1回だけだと思うのですが、回数とか進め方等はお任せですが、とにかくこういう団体同士が横のつながりを持っていることは必要だと思います。そういう仕組みは多分各団体だけだとバラバラで、声のかけようもないと思うので、どこかまとめ役が必要だと思うのです。

こういう事業が立ち上がったことは良いきっかけだと思うので、関係団体同士が横でつながる。それで情報共有ができ、場合によったらうちに来ているよりもそちらの施設の方がこのお子さんにとっては合うのではないかというようなことも交換できるかもしれない。要はネットワークがより綿密になってくる、そんなキーにこれがなってくれると嬉しいと考えます。以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） 今ご指摘いただいたまさにそのとおりでございまして、先日も三尾統括と私とで、6つぐらいの団体の皆さんがお声がけをした不登校の親御さんたちも含めたそういった自主的な集まり等もありまして、様々な情報共有が図られつつありますので、ぜひ今いただいたご意見を踏まえて、教育委員会としても横のつながりをつくっていくような、そのような活動につながるよう努めてまいりたいと思います。

○教育長（熊谷邦千加） さらに関わってでも結構ですが、ございますでしょうか。

よろしいでしょうか

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） 一応、県のこの認証制度では、当初7月に結論が出るっていうことでしたが、3月までかけるというふうに変更になりましたので、その結果をまた来年に生かしていくということで、両方の見直しも含めてあるということでご承知おきをいただけたらと思います。

それではこの件について協議はよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

日程第8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） それでは次にまいります。日程第8、陳情審議。今回、陳情審議はございません。

日程第9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 日程第9、その他。

(1) 教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 「教育委員報告事項」。

最初に、上河内前委員さんから、前回の定例会以降に関わったものの報告が入っております。12ページをご覧くださいと思います。

南信教育事務所の桂本主幹指導主事の帯同した訪問で、浜井場小学校の記録でございます。そこにありますように、「子どもたちが非常に発言の声がよく出ていた。明るく素直な子どもたちだった」ということ。「円形校舎の歴史が非常に一研究として面白かった」というようなこともいただきました。

あと面談からそれぞれ1、2、3、4ございます。要望や心配なことも記載がありますので、また踏まえていきたいと思っております。

また細かなところはご覧をいただければと思います。

上河内委員さんの任期は終わっておりますので、このような紙面でご報告をいただきました。

そのほかの教育委員の皆さん方から報告がございましたらお願いしたいと思います。

野澤委員さんお願いします。

◇教育委員（野澤稔弘） 先ほどお話がありましたとおりで、運動会や文化祭に行きましたので、報告させていただきます。

9月24日に浜井場小学校の運動会を見学してまいりました。どうも9月24日というのが西郷隆盛の命日らしくて、児童会長のあいさつがすごく立派でした。敬天愛人が出てきて、それで「この言葉で絆を深めるためにこの運動会を成功させよう」というそういう立派なごあいさつを児童会長がされまして、校長先生がぼそっと「やりづらいなあ」って

言っていたのがすごく印象的で、子どもたちが本当に元気で明るくて良いなと思って見ていました。

中に六年生だったと思うんですけど、多分ちょっと障がいがある方がいらっしやって、一緒に走って出てくるにもちょっとおぼつかないんですけども、ちゃんと同じくらいの背格好の子が支えて一緒に走っているんですね。ああいう姿を見ていてちょっと泣けてきましたね。まさに敬天愛人だなと思って帰ってきました。

それから9月28日が旭ヶ丘中学校の文化祭、開会式のみ拝見したんですけど、「ワンピース」という漫画のワンピースをテーマにやっていたみたいで、一人一人の生徒さんがこのくらいのハートの折り紙で作ったものを、それを一つ一つ貼ってあって、英語のワンピースっていうのをつくっているんですけど、最後のその「E」の字の一番下の横棒だけが開会式のときにはなくて、どうもそれは悪者が持っていったっていう設定になっていて、文化祭が成功するとそこに貼られるという、多分そういうシナリオだったと思いますけれども、非常に一人一人がやっばりかけがえのない存在なんだということを、その中でなにか訴えているというか、そういうことがすごく身に染みて感じた次第であります。

最後に、10月13日に教育課程研究協議会、山本小学校の道德の協議会に行っていました。授業まではちょっと出られなかったんですが、こういうことでやりますということの説明があった中で、六年生の授業なんですけれども、課題として3つ挙がってまして、物事を自分のこととして捉えられない、ちょっと上滑りしてしまうという、そういう傾向がある。それから本音で語れない。それからもう1つは、自分の考えていることを話して友達の考えていることと意見交換をするということをしなから、自分の考えを深めるということができないというのを、この3つをテーマにして道德の授業をやるという話だったんですけども、その3つを聞いて自分の会社に帰ったら全部当てはまっているじゃんということで、早速朝礼の課題で出させてもらいまして、非常に良い勉強をさせていただいたかなというように思います。

以上であります。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

続いて、三浦委員さんお願いします。

◇教育委員（三浦弥生） はい、ありがとうございます。

私も3点、行事等に参加させていただいた感想をお願いします。

まず最初に9月30日に座光寺小学校の運動会に行っていました。まだ9月の終わりの暑い時期だったんですけども、この運動会がその日だけではなくて、学校、子どもさ

んを含め、先生方や地域の皆さん、皆さんでつくり上げたものなんだなというところを強く感じました。

子どもたちもそれぞれ四年生から六年生までは運営ということで、係が6つほど、応援に得点、用具に放送、保健に会場と、それぞれの委員会の係に属してしまっていて、子どもたちが本当に自主的に動くという主体性を持ったそんな運動会を見させていただきました。

また、組体操も見させてもらっておりますけれども、子どもたちがしっかりとやるという、その後無事に成功した後に、体育の先生とまた音楽の先生がテントの影で「本当に良かったね」と涙ぐまれていたりとか、校長先生もそこに行って気にしてたりっていう、そういった姿を見ますと、本当に先生方にも尽力いただいているんだなというところを感じました。

また、先ほども暑かったという話をしたんですけども、暑さ指数計というものが救護係のところの置かれていて、保健の養護の先生をはじめ校長先生、教頭先生たちも常にそれをチェックするというような感じでした。

お昼際には暑さ指数計が31で厳重警戒ということで、最後の閉会式は「子どもさんたちはテント下で」というような放送が流れまして、テント下で行っていましたが、周りの保護者の方たちから少し拍手が出るような感じで、きちんと健康管理を考えた上での運動会の開催であったのかなと思います。

全校ダンスのときには、校歌で全校ダンスをしていたのですが、テント下のまちづくりの来賓の方々には、皆さん口ずさんでいらっちゃって、本当地域の中にある学校の運動会といったものを見させていただいたと、そのように見守っております。

もう1つは、教育課程の研究協議会ということで10月13日に上郷小学校に行きまして、生活科の授業ということで、小学校二年生の授業の研究の様子を見させていただいております。

「授業が楽しいとは」というところを最初に共有されてしまっていて、子どもたちが授業が楽しいと感じるのは、「自分の力でできた」、「前よりできた」、「疑問が分かった」、「やりたいうことができた」と、やはり何かが出来たという、そういった体験が自信につながっていくんだというような発表からのスタートであったかと思えます。

そんな中で何々しようとする。まさにムトスの学びってどういうものなのかなといったところを探究するような、先生方の授業研究であったかと思えます。

私を感じて見てきましたのは、子どもたちが何かを考えながら動けるっていうときには、何をやるのかが分かってイメージできることが大事なかなと思いました。先生方の授業

後の話合いの中でも、そんなところが多く聞かれたかなと思います。

二年生の子どもたちが何か考えるときには、子どもたちが知っていることや子どもたちがイメージできることを確認してからでないと、子どもたちが動くときに難しさを感じるのかなと。

具体的に言いますと、高松パンさんに行ったそのときの内容をほかの二年生のクラスの友達に分かりやすく伝えようというテーマだったわけですが、その分かりやすく伝えるの、分かりやすくてどういうことなのかなっていうところを二年生の子どもたちがどう理解しているか、どんなふうにイメージが共有できるか、「具体的ところが大事だね」なんて話が出ていました。分かりやすく説明は字を大きく書くのか、説明の字を短く書くのか、パンの形を紙粘土で作るのか、形を見せるのか、そういったところをきちんと共有させて確認させると動きやすくなるのかな。何事においても何をするのか分かるっていった、そういう授業展開というものは大切なんだなということを感じました。

最後は高校生講座「カンボジア・スタディツアー」ということで、この間 15 日の週末行かせていただいております。

こちらは事前の飯田学習ということで、様々な飯田の企業さんで高校生が学習をしたときに「ものさし」づくりっていうようなことを伊澤先生が言われておりましたけれども、やはり人や地域を見ていくという「ものさし」づくりをしてから異文化のカンボジアに行くということで、発表の中で本当多くのことを学んできているんだなということを感じています。

教育長のごあいさつの中にあっただかと思えますけれども、「やはり体験することと人と出会うことが大切だ」ということを最後のごあいさつで言われていたかと思えますけれども、全く私もそんなふうを感じまして、実際に体験してみること、そして人と対面でコミュニケーションを取ってみること、それに勝る学びはないのかなと、そんなように感じてまいりました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

北澤職務代理をお願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 皆さんと同じ文化祭、運動会のことになります。同じく 9 月 29 日、竜東中学校の文化祭に行ってきました。第 50 回という節目の文化祭でしたけれども、だんだん学校規模が小さくなって全校 67 名という中学校でした。上久堅・千代・千栄・龍江の地域の皆さんが本当にたくさん列席されていまして、体育館いっぱいの開祭式でした。

子どもたちを大事に見守っているんだなと改めて思いました。

特に心に残ったのは、花壇が伝統ですけれども、今年も非常にしっかりと手入れされていて、メイン花壇と各学年の花壇だけではなく、同窓会花壇というのがある、今度また教育委員の学校訪問で見られると思いますけれども、同窓会花壇までが立派に手入れされて咲いていたのはとても見事だなと思いました。

2点目は、同じく運動会。9月30日、伊賀良小学校に行かせてもらいました。こちらは796名というほぼ800名の運動会。それが広い校庭に赤白に分かれて、本当に校庭いっぱいに子どもたちがいるという壮観な運動会。そうは言いながら12時半までには終わりにするという4時間の中にコンパクトに詰めてやりましたが、竹引とか騎馬戦とか組体操とか定番のものはしっかりやっています、子どもたちは泥だらけになりながら大接戦でやっている姿は活気にあふれて、血が沸くと言う場面が多くありました。多感な時期の子どもたちが、本当に顔中を口にしてという変な言い方ですけど、大きな声で運動会の歌を歌っているのを見ると、やっぱりこういう行事は大事だなということを改めて思いました。

同じ日に文化会館では、東中のりんご並木の70周年の記念事業がありました。講演会とパネルディスカッションのところだけでしたが、参加をさせていただきました。

「りんご並木の未来について考える」というテーマでしたが、大人も含め多くの方が、これから多くの人に並木を知ってもらって、人に来てもらうにはどうしたら良いかという趣旨の発言が多かった中でしたが、並木委員長さんが「並木の初心。つまり並木の手入れを通じて、そこに住む人の心も街並みも美しくしたいというのが並木の初心なのだ」と。「具体的に自分たちが一生懸命手入れしているその姿を通して、今後取り組んでいきたい」という発言があって、非常によく分かると思いました。そのところを一番の土台にしてほしいということを改めて思いました。

最後は教育課程研究協議会、10月13日ですけど、こちらは三穂小学校で三年生の図工の授業公開でした。三穂小学校の中では一番多い人数の15人で、ダンボールをつなげて私たちだけの「いきいきワールド」を作ろうというテーマで、ダンボールを自由に自分で切って、前の時間までに学んだ10種類ほどのつなぎ方を使って、自分の思い通りに作っていくという、造形遊びをやっていました。日頃なかなか自分を出せないという子が、悩みながらも、友達がやっている様子を見て、最初はそれを見よう見まねでやっていたのですが、途中から没頭して、どんどん作品がつながって大きくなっていく姿を見させてもらいました。「主体的・対話的で深い学び」と言うが、その授業の中には人との対話はないのですが、子ども一人一人が自分との対話を自問自答しながらものづくりに向かっている姿

に、小学校三年生なりの本質的な学び、追求している姿がありました。今、ICTの活用とか、生成型AIをどう使うとか、最近ではさらに進んでAGI、コンピュータ自体が考えて進めていくというようなことが盛んに取りざたされているので、自分で考えて、決断して、その思いを形にするという、この図工のような学習は、これからますます大事にしていかなければいけないと思いながら見てきました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

では、林委員さんはいかがですか。

◇教育委員（林 綾子） 私まだ1日しか活動してませんので、そんなにはないんですが、学校訪問に初めて行かせていただいて、1日で3校を回らせていただいただけでも、小規模校、またもう少し大きな学校、いろいろとありまして、その規模に応じた先生方の工夫ですとかいろいろな対応を見させていただいて、もうそこだけでも大変勉強になったというふうに思っております。またこれからいろいろと活動させていただくのが大変楽しみになりました。

感想だけですけれども以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

それぞれの報告事項について何かご質問等ございますか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） 今回から学校行事とか教育課程にも出ていただけるように、これも4年ぶりじゃないかなと思いますが、また様子を見ていただきながらそんな感想をこれからもいただければなと思います。

（2）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、「教育次長報告事項」。

◎教育次長（秦野高彦） ございません。

（3）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 3番目にまいります。「学校教育課関係報告事項」。

福澤課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは9月27日に第3回の「飯田市これからの学校のあり方審議会」を開催いたしましたので、その報告をさせていただきます。

13 ページ、資料№.3 をお開きください。

第3回の審議会では、事務局からこれまでの小中連携・一貫教育についての報告をした後、(3)・(4) ございますが、学識経験者として参画をいただいております前杉並区教育長の井出隆安委員、それから玉川大学教育学部教授である坂野慎二委員のお二人から事例報告をいただき、その後、委員の皆様による意見交換を行いました。

23 ページをお開きいただければと思いますが、飯田市の小中連携・一貫教育につきましては、子どもたちの学力・体力の向上と生徒指導及び不登校問題などの教育的課題を解決することを目的に、平成23年度から取り組んできており、12年間の取組の成果として小中を通じて子どもを育てるという教職員の意識が醸成されたこと。それから中学校区での具体的な連携の推進、教育支援指導主事を中心とした小中で連携した不登校対応、地域と連携した小学校独自の教育といったことがある一方で、課題として何でも小中連携・一貫教育の中で考えるというような肥大化が起きてしまったことや、趣旨の明確さや方向性の曖昧さ、9年間を通して子どもを育てるその像が不明確となっていることなどがあるという報告をしております。

そして、それらを踏まえて、現在の取組について令和5年度からの小中連携・一貫教育を特色形成・実践期として、各中学校区が学びの特色を明確にして教育実践を行うこと。中学校区で特色ある教育課程に取り組むことを各学校にお願いをしているということを報告しております。

それから27ページからになりますが、井出委員からは「地域と協働する新しい学校づくり」と題しまして、杉並区における学校と地域との協働についてご報告をいただき、「杉並区においては、住みやすいまちをつくっていくこと、それが子どもたちを育てるという観点から進めてこられた」ということをお話いただいております。そのことを「いいまちはいい学校を育てる、学校づくりはまちづくり」と表現をされており、それを踏まえて杉並区の小中一貫教育基本方針をつくられたということをご紹介いただいております。

この小中一貫教育の目指す効果、30ページでございますが3つ掲げられておりまして、1つ目は、学びの系統性・連続性を重視した指導による学力・体力の向上。2つ目は、「かかわり」と「つながり」の中で育まれる豊かな人間性の涵養。それから3つ目は、地域との関わりの中で社会と関わる力の育成となっております、それぞれの効果について検証をした結果、効果があったと分析されていることをご紹介いただいております。

また、学校を支える地域の教育力について、「飯田市には公民館がありまして、その公民館主事・館長、そしてそれに関わる学習グループには特出すべきものがあって、これを生

かすべきではないか」ということをお話いただいております。

そのほかはまたご覧をいただきまして、続きまして 43 ページをご覧いただければと思いますが、坂野委員からの事例報告でございますが、小中一貫教育が国の政策としてどのように広がり、こういった施設形成のものがあるのかという点を中心に坂野先生からはご報告をいただきました。

国がここ 20 年ほど義務教育というまとまりを意識しており、その中で小中一貫教育が進んできたこと。そしてその目的として、2014 年の中教審の答申から、組織的・継続的な教育活動の徹底により教育効果の向上や子どもたちの社会性の育成機能の向上、いわゆる中一ギャップの緩和をはじめとする生徒指導上の諸問題の減少が挙げられていること等を紹介いただきました。

特に飯田市としては、小中一貫教育を進めるとすれば、何を目的にするのかが大事になるということをお話いただいております。

また 48 ページからになりますが、施設の分類といたしましては、施設一体型・施設隣接型・施設分離型、この 3 つがありまして、その施設分離型が圧倒的に多いということをご紹介いただき、またさらには「学校の設置者として教育の質を高めるということについて特色を出せば出すほどその継続は難しくなり、継続させるには人的な配置や都道府県の支援が重要になる」ということ。また、「地域住民の協力も大変重要であり、地域側も持続的に継続して協力ができるというやり方を考えたほうが良い」ということをお話いただいております。

資料の全てを説明できれば良いんですが、かいつまんでご説明をさせていただきます。

その他、意見交換では資料はございませんが、地域のつながりという点につきまして、「地域という括りをどのように捉えたら良いのか」というご意見や、以前に比べて地域のつながりが減ってきている大変難しさというものをご意見が出され、意見交換がありました。

また、杉並区の小中一貫教育を推進してきた中で閉じることとなってしまった学校の周辺の環境や住民の意識というものにつきましても、その変化についても質問がなされたりしております。「飯田市の小中一貫教育の中の学びの特色を明確にするという点について、それぞれの中学校区の特色と言ってしまうとなんとなく美しく思えるんですが、その中身を考えていくときは、やはり地域の皆さんと一緒にやっていく必要がある。ただ、それをどのように進めていくべきか」というそういったご意見も出されて意見交換があり

ました。

今後の予定になりますが、11月22日に第4回の審議会を予定しておりますが、そこではこれまでの議論、それをまとめて教育委員会としての考え方、叩き台というものをまたお示しをしていただければと考えておりますので、次回も11月の定例会にてお伝えをしながらまた進めてまいりたいと考えております。

以上、報告とさせていただきます。

○教育長（熊谷邦千加） オブザーバーとして北澤職務代理参加いただいておりますが、何か補足等はございますか。

◇教育長職務代理者（北澤正光） ありません。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの報告につきましては、後でまた一括してご質問、ご意見を賜りたいと思います。

続きまして、ICTの活用に関する関係の報告事項をお願いします。

今井学校教育専門幹。

◎学校教育専門幹（今井栄浩） それではお願いいたします。

54ページになります。ご覧ください。

飯田市は、教頭先生方に研修の機会を設けており、教頭会調査研究プロジェクトにおいて今年度もプロジェクトごとに学校施設などの研修を計画しております。その中でICT教育プロジェクトですが、今年度県内と県外のICT先進校の視察を計画しました。バスの関係でちょうど真ん中になりますが、視察①の県内の須坂市立東中学校の視察に余裕がありますので、もし希望があれば教育委員さんにも参加していただければということで紹介をいたします。

東中学校は、県内に6校あるリーディングDXスクールの1校でありまして、少し先のICTの活用のイメージを掴んでいただくのにちょうど良いのではないかとこのように考えております。

25日、朝から1日になりますので、もし可能で見てみたいというご希望があれば明日くらいまでにご連絡をいただければ参加可能ですので、よろしくお願いいたします。

以上になります。

（4）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、（4）「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

伊藤課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） それでは右側の 55 ページをご覧くださいと思います。

10月9日スポーツの日に開催しました第69回風越登山マラソン大会の報告でございます。

スポーツの日、天気の特異日ということでありましたが、前日から雨が降るような中で大会開催どうするかっていうことで、ウォーキングの部については登山マラソンのコースよりも少し危険なルートがあるということでも中止とさせていただくとともに、登山マラソンの白山社コース、一番上まで上がるコースについても最後の石段が滑りやすく危険ということ、その下の一の鳥居という折り返し地点を少し手前に下げまして開催をしております。

2番に参加者数ということではありますが、今年度474人の方お申し込みをいただきましたが、雨天ということもありまして、実際には343名の方の参加となりました。

それから4番でありますけれども、大会運営を支えたスタッフということで全体では172名とあとは実行委員会関係も含めてでございますが、一番下にありますボランティアとして小学生、中学生、または高校生、特に今回は高校生の山岳班・陸上班、多くの協力をいただきましたので、また数字等は記載のとおりでございますので、報告をさせていただきます。

それでは続きましておめくりいただいて56ページをお願いいたします。

今年度も10月11月から「冬季ジブン・チャレンジ期間」を迎えるわけではありますが、飯田市では令和元年度から完全下校が早まる期間を放課後の部活動を行わない期間ということで取り組んできておりまして、令和2年から11月から1月の3カ月間、それを期間としてきました。

令和2年度の生徒のアンケートの中で、「この期間何やって良いか分からない」という生徒が多かったことから、令和3年度から名称を「冬季ジブン・チャレンジ期間」ということに変えながら、生徒が自分の目標を立ててそれを進める計画を立てながら主体的に行動できるようなことを目指して取り組んでおります。

1番の主体性を育む取組につきましては、協定を結んでおります筑波大学のアスレチック部門の先生を講師をお願いをして（1）番にありますように今年度は緑ヶ丘中学校をモデル校としてオンライン授業で目標設定、アクションプランの設定等の授業を進めてまいります。あわせて、その機会をほかの先生も一緒にお聞きいただくことはなかなか難しいので、映像として残しながら、それぞれの学校でそういった取組ができるようにということで進めてまいります。

もう1つ2番でございますが、生徒が地域で多様な体験できる場の提供っていうことでございます。

これまでもずっと続けておりますけれども、スポーツにつきましてはお手元にお配りしたパンフレットのとおり、また11月から始まる競技もありますので、そういったものを1つの選択肢としてPRをしまいいりますし、文化系につきましてはこれまでも行っておりますように、社会教育機関のいろんな講座であるとか、公民館のボランティアの募集、そういったものも情報提供していきますが、今年度は部活動の地域移行に向けた連携協議会で文化部会でもいくつか議論の中で意見交換をさせていただいております。

少し音楽系については、「委員の皆さんが関わる活動の中で、生徒がいろんな楽器に触れたりとか、いろんな体験ができるようなことはできるのではないか」というご意見もいただいておりますので、協力いただけるような団体が見えていただくところで講座を組んでまた生徒の皆さんに案内をしていければというふうに考えております。

(3) が冒頭教育長からお話があった「エンジョイスクエア」というものであります。

右側の57ページにチラシを付けてありますけれども、こちらはあの飯田下伊那全体で11月12月の期間に行うということで、現在実際の講座を運営していただく団体の募集もしております、こちらまだ詳細なものをお示しできるものはありませんけれども、地域の団体の皆さんも一つの試行としてやってみないと分からないのでということで、新たな取組がスタートしたものであります。飯田市としてもこの取組を応援しながら、将来的には休日の部活動、平日も含めてですけれども、生徒の選択肢を増やす機会につながるという考え方から、そういったものに協力をしながら取り組んでまいります。

おめくりいただいて58ページをお願いいたします。

「わが家の結いタイム」の三行詩コンクールの作品の審査についてのお願いでございます。

飯田市では「わが家の結いタイム」ということでいくつかの「あいさつ」「会話」「お手伝い」「読書」そういったものを取組の柱に据えて家庭教育の推進に取り組んでおりますけれども、それぞれの家庭の取組を三行詩にまとめていただいて、それぞれ入選作品を選んで、それをPRするときに使ったり、さらなる取組の推進につなげたいということで進めております。

今年度、冒頭に書いてありますように、1,116点の応募をいただきましたけれども、そこからの事務局で少し事前の審査をさせていただいて点数を絞らせていただいております。

58ページの下段にありますように、部門については園児の部から一般の部ということで、

それぞれ太枠の左側に第1審査の段階で絞った点数をお示しさせていただいております。

園児の部につきましては、今年度から初めて設定をした部門でありますので、作品数も6ということで少ないという状況でありますので、一席を1点、それ以外のものについて一席、二席、三席ということでそれぞれ選んでいただきながら審査をお願いしたいというものでございます。

なお、中学生の部のところに全般というものと環境というものと2つございます。今年度は、結いジュニアリーダーの生徒さんが、環境ゼロカーボンとかそういった視点の部門をつくれなにかということで、これも新しく部門を設けたものでありまして、今年度の取組を踏まえて、できれば来年度からこういった結いタイムの中にゼロカーボン、家の中で電気を消したり無駄がないようにっていう、そんなようなことも話合いのきっかけにしてもらえればということで考えておりますので、内容が決まりましたらまたご説明をさせていただきたいと思っております。

おめくりいただいて、60ページからがそれぞれの部門で、事務局で絞らせていただいたものを掲載させていただいております。69ページまでになりますけれども、あとお手元に投票用紙ということで1枚ものをお配りさせていただいております。こちら今日の段階でお読みいただいてもなかなか決めきれものではありません、ないと思っております。この応募用紙のところに二次元コードを設定してありますので、これを読み込んでいただいて投票していただくことが可能でありますので、申し訳ありません、あまり日がありませんが10月23日までということで、教育委員の皆さんにも投票をお願いしたいと思います。

この投票については、わが家の結いタイム推進協議会という委員会がございまして、教育委員会全体でも取り組んでおりますので、ここの出席の次課長も含めて投票しますし、その推進協議会の委員のみんな皆さんにもお願いをして決定をしていきたいというものでございます。

よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（5）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それではさらに報告を続けてまいります。（5）「文化財保護活用課関係報告事項」。

宮下文化財保護活用課長。

◎文化財保護活用課長兼考古博物館長（宮下利彦） 考古博物館事業につきまして、報告をさせ

ていただきます。

お手元の「いいだの古墳探検隊」案内チラシをご覧いただきたいと思います。

春にも実施をいたしました。市民に飯田の古墳、出土した遺物に親しんでいただき、飯田の古墳の特徴・価値を学んでいただくことを目的とし、まして、「いいだの古墳探検隊、秋の部」を11月19日日曜日に開催をいたします。

詳細はチラシのとおりですが、今回は修復しておりました古墳時代の鉄製の鎧、短甲二領が出土しました座光寺地区の古墳を中心に探検します。

また、教育委員の皆様方に短甲初公開記念講演会の案内チラシをお配りしておりますのでご覧ください。

報告は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（6）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） さらに続きます。（6）「公民館関係報告事項」。

上沼副館長。

◎市公民館副館長（上沼昭彦） よろしく願いいたします。

令和5年度高校生講座「東北スタディツアー」につきまして報告をさせていただきます。

本日お手元に「東北スタディツアー」のチラシを配布させていただきました。

飯田市公民館では、リーダーを担う高校生を対象に、地域に誇りと愛着を持ちながら、広い視野で自身や飯田を捉え、自身や地域の将来を磨きながら行動できる、そんな人材を育むことを目的に高校生講座を実施しております。

今年度は5月より「カンボジア・スタディツアー」を開催いたしまして、高校生が飯田を知る地域学習、7月26日から8月1日までの間のカンボジアでの現地における学習交流活動、帰国後の振り返り学習を実施いたしまして、先ほど教育長や三浦委員からも触れていただきましたとおり10月15日にその学習の報告会をさせていただいたところでございます。

この10月より新たに高校生が、東北の震災復興や地域づくりなどについて学ぶ高校生講座「東北スタディツアー」を実施いたします。「東北スタディツアー」は、昨年度に続き2回目の取組となります。

学習の組立ては「カンボジア・スタディツアー」同様、飯田を知る地域学習、東北地方での現地学習を実施し、地域学習と現地学習から得た「気づき」を振り返りによって紐付

け、共有をしながら学びを深めていきたいと考えております。

東北での現地学習は、11月3日から5日まで実施をいたしまして、宮城県の気仙沼市、石巻市、南佐伯町などを訪問させていただき、被災地の振興やまちづくりに携わっている方々から学びます。

講座の実施においては、高校生の主体性を大切にしながら、仲間とともに様々な考え方や価値観、地域の人や暮らしに触れながら、自己のあり方や生き方について考える時間にしていきたいと考えております。

なお、年度末に学習報告会を開催したいと思っています。報告会の詳細は、決まり次第また改めてご案内させていただきます。

以上となります。よろしくお願いたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（7）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） さらに続けてまいります。（7）「文化会館関係報告事項」。

下井館長。

◎文化会館館長（下井善彦） 文化会館からは、2点ほどご案内をさせていただきます。

まずは伊那谷文化芸術祭、茶色のチラシがお手元にっておりますけれども、まずこちらからお願いいたします。

既にご存じのことと思っておりますけれども、伊那谷文化芸術祭は、地域の舞台芸術家が一堂に会して、日頃の練習の成果を発表しあう場であり、ジャンルどうしの交流を図っておるというものでございます。こちらは出演者がもちろん出演するんですけれども、舞台を支えるということも行っておりますので、ぜひ足を運んでいただきたいと思っております。

今年は47団体、大体1,000人くらい出演者がおります。最終日には、打ち上げ反省会も用意されておりますので、教育委員の皆様には茶封筒でそのご案内をさせていただいております。こちらの出欠等も事前にいただきたいので、次回の教育委員会、11月9日になりますけれども、次回の教育委員会の際にご報告をいただければありがたいと思っております。

それからもう1点ですが、深緑色のチラシでクリスマスコンサートということでご案内を申し上げました。こちら11月23日にクリスマスコンサート、コンサート・ア・ラカルトの一環でありますけれども、確かに11月23日だとちょっと早いですけれども、クリスマスコンサートという題で開催をいたします。こちらぜひ足を運んでいただきたいと思いま

す。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（８）図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（８）「図書館関係報告事項」。

瀧本館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

別紙のピンク色のチラシをご覧ください。

図書館の文学講座ですが、コロナ禍前までは図書館の文学講座は飯伊婦人文庫の皆さんと共催で文学連続講座というものを行っておりました。コロナ禍でお休みをしている間に飯伊婦人文庫の皆さんの高齢化ということもありまして、企画運営が難しいということで当面の間、図書館で市民の皆さんのご意見を伺いながら図書館で開催をするという形をとるようになりました。

今年度は、古典文学を学びたいという声がありましたので、こちらに記載してありますように「古典に親しむ～宇治拾遺物語を中心に～」というテーマで吉澤 健さんに講師をお願いして10月29日に行います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（９）美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（９）「美術博物館関係報告事項」。

牧内副館長。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） それでは資料No.8、最終70ページをご覧くださいと思います。

今年度、美術博物館は、ロビー天井の耐震補強工事に伴いまして、昨日から来年の3月8日まで約5カ月間の休館をさせていただきますが、年度当初予定のロビー天井の耐震工事と展示室等の照明器具のLED化の改修工事に加えまして、9月議会に補正予算案で提出しました柳田國男館の蟻の害の対策も含めました改修工事もこの休館期間中に行わせていただきます。

工事期間中の職員の出勤体制でございますけれども、工事の休工日の日曜日と月曜日を

休日としまして、火曜日から土曜日までの出勤ということで体制をとらせていただいております。ただし、日曜日にあります講座・見学会などにつきまして、対応できますようにその開催日につきましては出勤をします。また、工事期間につきましては、祝日に関係なく工事は行われますので、日曜日・月曜日以外の祝日は職員が出勤をするという体制をとってまいります。

工事期間中ですけれども、教育普及の事業等を計画どおり行いまして、講師の派遣や出前講座の要請には応じてまいりますし、この期間を使いまして資料の整理作業等、調査研究、資料の収集、保管事業に充てたいと考えております。

工事中、敷地への立ち入りについても制限がございまして、立入禁止の場所についてはカラーコーン等を設置して明示してまいります。記載の3か所を今、想定しています。

また、駐車場につきましても、本来ですと敷地内の建物の裏側に職員が駐車していたわけですが、これが工事によって使えなくなりますので、大きく変わる点がございます。第1駐車場・第2駐車場・第3駐車場ということで、追手町小学校側から長姫神社にかけて1・2と並んで消費生活センターを挟んで長姫神社の手前に第3駐車場とそんな形に並ぶわけですが、第1駐車場につきましては基本的には使用いただくということで、図書館の利用者の使用も含めて考えております。

第2駐車場ですけれども、これにつきましては職員が出勤します火曜日から土曜日につきましては、職員の駐車場と公用車の駐車場ということでほぼほぼ満車という状態になりますので、この期間はほぼ使えない状態になりまして、日曜日につきましては使用が可能とこのような形になります。

長姫神社の入口に位置します第3駐車場ですけれども、こちらは工事が来週入札等決まって業者が確定しますので、工事期間はそれ以降確定するわけですが、工事期間につきましては工事業者の車両の置き場、資材置き場、あとは現場事務所の設置場所として想定しておりますので、工事期間中は使用不可能と考えております。

美術博物館があります橋南地区のまちづくり委員会につきましては、9月の定例会に行き説明してまいりまして、敷地への立ち入りや駐車場の使用の制限については説明を済ませております。

まちづくり委員会につきましても、工事の概要については連絡済みですが、隣接しますので工事業者決定、また期間等、確認ができた段階で改めて説明や連絡をしたいと考えています。

続きまして、別紙の11月の「びはくにゅーす」をご覧くださいと思います。

休館期間でありますので、美術博物館の展示資料等はございません。考古博物館、秀水美人画美術館の展示資料とあと11月と12月前半に予定しております美術博物館主催の各分野の講座の開催内容等を記載しておりますので、またご時間があるときにお目通しいただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(10) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、(10)「歴史研究所関係報告事項」。

牧内副所長。

◎美術博物館副館長兼歴史研究所副所長（牧内 功） それでは歴研ニュースの10月1日発行の126号をご覧いただきたいと思います。

表紙は、9月9日・10日に開催しました地域史研究集会の様子について紹介をさせていただいております。

開いた2ページは今年度飯田・下伊那の地域史研究に関する優れた作品に送ります飯田歴研賞2件の紹介と受賞者のコメント等を掲載させていただいております。

3ページは、今年度設立20周年を迎えますので、元研究員等によりますリレーエッセイ。

最終ページは、歴史研究所主催の地域史講座、定例研究会、歴研ゼミの開催日程について掲載でございます。

お時間のあるときにまたお目通しいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

それではたくさんな報告事項が並んでしまいましたけれども、ただいまは報告いただいた報告事項について質疑等をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

林委員さん。

◇教育委員（林 綾子） 「冬季ジブン・チャレンジ期間」ということでご報告いただきました内容で、ちょっと的外れな内容になったら申し訳ないんですが、スポーツ系の競技ですとか、あるいはこれからは文化系の講座等も開催していきたいというようなご報告がございましたので、大変楽しみにしているところではありますが、部活動の地域移行ということが今、言われている中で、もう皆さんご承知のこととは思いますが、やはりこれ保

護者がどういうふうに関われるかによってこの活動に参加できるかどうかでかなり大きな違いが出てくるのかなというふうに感じております。

簡単に言えば送迎の問題ですとか、このスポーツの関係も曜日、場所、時間、限られておりますので、やはり中学校の部活動のようにその場に行ってくれば勝手にやって帰ってきてくれるという形ではありませんので、その辺りのことも十分ご承知かとは思いますが、保護者としてはなかなか本人が例えば「やりたいなあ」と思っている、お仕事の都合ですとか、いろんなご家庭の都合で参加ができないという方が結構いらっしゃるのかなというふうに感じております。

私自身も部活動に参加している子どもたちがどういうふうにかようなものに、例えば部活動を主にやっている子にとっては、なかなかほかのことをじゃあっていうのもなかなかできなかったり、ちょっと問題が2つになっちゃいましたけど、ちょっと今、保護者の関わり方ということでもとても難しいなというふうに感じておりますので、今後こういった活動がいろんな選択肢が子どもにとって与えられるというのは大変ありがたいことであるなと思うものですから、やっぱり保護者としてどういう関わりを持っていけばいいのか、あるいは関わりがなかなかできない保護者さんに対して何か策があるのかということをやっと気にしております。1つの意見として申し上げました。

お願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） 伊藤課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） ありがとうございます。

私たちが新しい試みをしながら課題を見つけて、改善もしていくということの繰り返しかなというふうにつけて今、第一歩を進めようとしています。

大きくは平日の部活動がすぐなくなるわけではありませんので、まずは休日に関心するところにあるような活動ができる場づくりを進めながら、当然そこでは今ご意見いただいたような送迎の問題であったりしてきますし、あと誰が子どもたちの活動を、指導ばかりではなくて支援するっていろいろな関わりがあると思いますけれども、そういったところも見ていく必要があると思っています。

1つは、全市型スポーツスクールについては、今年度スポーツ協会と一緒に取り組んでいる事業ですけれども、学校に出張に行くっていうやり方をとっていますので、子どもさんが普通に学校に通う範囲で行ける場所での活動っていうのを少し増やしていく必要があるかなというふうには考えていますが、いろんな取組を重ねながら試行錯誤しながら、そういった保護者の皆様のご理解がないとできないところもありますので、しっかり今、

検討している内容についても、保護者の皆さんにお伝えをしながら進めていきたいというふうに考えております。

ありがとうございます。

◇教育委員（林 綾子） ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

野澤委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） 風越登山マラソンなんですけど、昨年の実績者から今年の参加者が急に増えているところが3つほどあるんですけど、働きかけか何かなさったんですか。

○教育長（熊谷邦千加） 伊藤課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） 具体的には、実行委員の方でスポーツ競技につながりのある方が一生懸命動いていただいた部分もあります。

昨年見ると中学生は募集しても参加者少ない状況もありましたけれども、今年度はちょっと天候の影響がありましたけれども、中学生、特に高校生は今までボランティアとして関わっていただいていた生徒さんがいたんですけど、「終わったら走れるかな」とか、「少しお手伝いしてもらったら参加料を安くして走ってもらうとか、いろんなやり方があるんじゃないか」ということを係の中でも話をしながら進めてきたので、1つはやっぱりスポーツ協会のそういった方が積極的に動いていただいたということ。あとは職員でも少し新しい取組として次長が先頭を走りながらYouTubeを作成して、上まで登るっていう職員でリレーしてっていう、そういう動画の配信もしました。動画配信を見て参加した方が何人かっていうのはちょっとつかんでいませんけれども、いろんなアイデアを出しながら実行委員会、いろんな方に協力いただいた結果かなというふうに思っています。

◇教育委員（野澤稔弘） ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） よろしいでしょうか。

さらにいかがでしょうか。

（発言する者なし）

はい、ありがとうございました。

それではまた様々な催しがあったり、あるいは今のように「わが家の結いタイム」三行詩コンクールに投票いただいたり、あるいは伊那谷文化芸術祭のご案内があったりいたしますが、このような催しもありますので、可能な範囲で参加できるものがありましたらお願いしたいと思います。

(11) 今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） （11）今後の日程について。

櫻井課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（櫻井英人） それでは資料3ページをお願いします。

（11）今後の日程について、学校訪問を書いておりますのでたくさん記載がありますが、明日は、浜井場小学校、高陵中学校、上郷小学校の学校訪問、またよろしくをお願いします。11月月末まで続いてまいります。遠いところの学校は、出発時間を少し早めにしてありますので、ご確認ください。

研修会につきまして、10月27日に長野県市町村教育委員会研修総会が松本市で、11月8日に飯伊市町村教育委員会連絡協議会の秋季研修会が売木村でございますのでご出席をお願いします。

次回11月の定例会は11月9日でございますが、中央図書館の研修を行いたいと思いますので、会場は中央図書館になります。

あと職務代理につきましては、第3回の飯田市教頭会と第4回の飯田市校長会が10月23日と11月13日に予定されておりますので、ご出席をお願いします。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの日程も含めてですが、本日予定された議案等はこれですべてとなります。

ご発言等ございましたら、言いそびれたことでも結構ではありますがいかがでしょうか。

三浦委員さん。

◇教育委員（三浦弥生） すみません。

先ほどの林委員さんの質問についてお話をいただいているのを聞いていて、ちょっと思ったんですが、全市型のスポーツスクールを行うに当たって、時間帯がほとんど平日の夕方から夜にかけてっていう形になってますけど、これって例えばお休みの日の昼間とか平日の夕方とか、そういった形にすることはできなかったっていうことではなかったでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 伊藤課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（伊藤 弘） 全市型競技別スポーツスクールについては、スポーツ協会の皆様のご協力をいただきながら開催をしておりますので、現状指導いただく方の都合からすると、やはりこの時間にどうしても講座を設定するっていうのが今の現状かなというふうに思っています。

今年度は、先ほど申し上げたような出張型のような形であるとか、今年の一つのテーマ

は土日にどのくらいの講座ができるかっていうところも、私は少しポイントの年かなというふうに思っていましたけれども、やはり皆さんお仕事を持ちながら指導していただいているという現状がありますので、部活と違うところに出たりというところがあるので、強制ではありませんけれども、現状がなかなか今ではもう少し早い時間の設定というのはやっぱり指導者の確保というか、そういったところで少し課題があるというのが現状かなというふうに捉えています。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。

健全な子どもたちの体のことを考えたときには理想的なものは休みの日の昼間にできれば、親御さんたちの送迎とかも無理がないのかな、お仕事帰ってきてまた送迎に行かなきゃいけないからっていうことも夜遅い時間にシフトしなくて良いのかなというふうに思ったり、また指導者の方も休みの期間に指導いただくような形ができるのかなとちょっと思いましたけれども、今のご説明で結構です。

○教育長（熊谷邦千加） ほかよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

日程第10 閉 会

○教育長（熊谷邦千加） 日程第10。以上をもちまして10月定例会を終了といたします。ありがとうございました。

閉 会 午後 4時50分